

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 大学院大学実習費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600 (内 8223)

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,989 千円 (前年度予算額：3,989 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,989	0	0	3,989	0	0	0	0	0
要求額	3,989	0	0	3,989	0	0	0	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

IAMAS での教育・研究活動の現場を広く公開する。また、実習でそのために必要な表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図ることを目的に実施。

例年、IAMAS 受験者の中には、オープンハウス及び卒業制作展に参加し、その表現者としてのあり方や技能の高さに向学心や憧れを持つ人が多数おり、学生募集にも寄与している。

令和3年度は、引き続き IAMAS の教育や研究成果を学外に紹介し、本学の教育・研究内容を県内外の企業や地域住民、受験希望者へ PR していく。

(2) 事業内容

- ・地域開放事業 (オープンハウスの開催 (例年7~8月頃))
- ・成果発表事業 (卒業制作展の開催 (例年2月頃)、プロジェクト研究の紹介等)
- ・実習 (消耗品購入等)
- ・授業目的公衆送信補償金 (オンライン授業実施にかかる著作権料負担)

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	122	卒業制作展講師
費用弁償	101	卒業制作展講師
業務旅費	62	卒業制作展・実習関係旅費
消耗品費	1,055	オープンハウス・卒業制作展・実習関係消耗品購入費
印刷製本費	502	チラシ、パンフレット、ポスター、封筒等
役務費	162	発送費、来場者傷害保険
委託料	1,039	卒業制作展会場設営業務委託費
使用料・賃貸料	946	卒業制作展会場使用料・貸借料
合計	3,989	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

実習で表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図り、オープンハウスや卒業制作展を通して、IAMASでの教育・研究活動を広く公開することにより、本学への受験者数の増加を図り、優秀な人材を確保する。また、就職支援及び研究活動を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
オープンハウス	222	34(1日開催)	108	—	300	—
来場者数と進学相談者数	43 (H26)	20(参考) (H30)	34 (R1)	11 (R2)	50 (R3)	22%
卒業制作展	1,262	679	613	—	1,400	43.8%
来場者数	(H26)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

コロナウイルス感染症の影響で、オープンハウスを7月23日(木)、24日(金)にオンラインで実施した。そのため、来場者数を把握することができなかった。また、進学相談も事前予約制としたため例年より少ないという状況があった。卒業制作展については令和3年2月20日(土)～23日(火)にソフトピア地区で開催する。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

オープンハウスは、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となったが、例年と違う工夫をして開催にこぎつけたことで、途切れずに来年に繋げることができた。来場者を把握することはできなかったが、アンケートは好意的なものが多く、本学の教員の研究への理解が深まったと好評で受験者数の確保につながると期待できる。

卒業制作展では、学生の卒業制作に加えて、プロジェクト研究の発表等、本学の研究活動の内容の発表も行い、企業等に対して本学の研究内容をアピールする。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	実習で表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図り、オープンハウスや卒業制作展を通して、IAMAS での研究活動、地域との連携活動、学生の活動等を幅広く社会に公開することにより、企業や地域との連携強化や受験生の増加が期待される。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	オープンハウスや卒業制作展の進学相談会参加者の中から、毎年多数の入学志願者が出ている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	オープンハウス及び卒業制作展実施にあたり、必要機材の在庫をチェックするなど、経費を必要最小限に抑えている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 少子化が進む中でどこの大学も受験生の確保に頭を悩ませている。この中で受験者数の増加と受験者の質の向上は、本学における研究内容の更なる発展にとって欠くことができない課題である。多様で高度な技術の習得を目指した実習及び2つの行事を通して、本学のメリットであるメディア表現分野の先進研究施設として、また、ソフトピア地区の地の利を生かした産学連携を生かした研究成果を大きくアピールし、学生や関係者、地域に理解を深めたい。	
--	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 学生の表現者としての多様な技術の獲得及び能力の向上を目指すとともに、IAMAS の研究活動、地域との連携活動、学生の活動等を今まで以上に広く社会に公開する。企業や地域との連携を強化し、受験生の増加を図る。	
---	--

(他事業と組み合わせる実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は 事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる実施する理由や期 待する効果 など	